

1. は実地検証済み。2~4は未検証。

※暴動評価基準は文末に掲示。

1. 3/20、江蘇省南京市白下区中山東路の図書館前で、約1000人の若者が梧桐伐採に抗議。 暴動レベル0。

・ネット情報 : 3/20、南京市白下区中山東路の南京図書館前で、学生や市民、約1000人が街路樹の梧桐(アオギリ)の伐採に抗議して、図書館前や広場に集まり、座り込んだりした。南京市政府は地下鉄の改修のために、梧桐の老木を伐採しようと計画していた。しかしこの梧桐は歴史的な建造物である南京総統府前を、長年彩ってきたもので、南京市民の心に深く根ざしたものであった。ネット上で台湾国民党の邱毅氏が梧桐の伐採に反対を呼びかけたため、ネットユーザーたちが中心となり、当日、1000名近い若者が集まった。若者たちは当局の弾圧を恐れ、垂れ幕などを掲げず、スローガンも叫ばず、静かに微笑んで抗議の意思を示した。市当局は、事前に梧桐伐採の中止を決め、若者たちに抗議集会に参加しないように、携帯電話やネットで呼びかけたり、大学での集会などを禁止したり、ネットを封鎖したりしたが、結局、集会を阻止することはできなかった。集会の状況を撮影していて、カメラを当局に没収されたり、警察車輛に連行されたものもいたが、集会は平穏に散会した。警察は2~300名ほどが出動。



↑ 《 3/20当日の様子 》

・実情 : 3/20、約1000人の若者が図書館前で、静かな抗議デモを行った。南京市では、2009年8月に市長が替わり、その後、市街の工事が相次ぎ、昨年、道路工事中にガス爆発が起き、300人以上の市民が負傷する事故もあり、市民の不満が鬱積していたという。



・私見 : この抗議行動は梧桐伐採反対を口実にしたもので、実態はジャスミン革命の影響を受けたものようである。

2. 3/24午後、広東省深圳市華強北商業街の中心で、立ち退きを巡り、商店主と運営会社の社員が殴り合い。

暴動レベル 0。

・マスコミ情報 : 3/24午後、深圳市華強北商業街の中心地のビルで、1階に入居していた60店舗余の商店主たちに、ビル運営会社が3階に移転するように要求し、運営会社の警備員が強制立ち退きを迫ったため、両者の間で、数十人規模の殴り合いとなった。数千人の野次馬が集まり、現場は騒然となったが、当局の治安部隊100名余が出動し、数時間後に終息。

3. 3/29、雲南省昭通市綏江県で、立ち退きの補償金に不満の村民数千人が道路封鎖して抗議。 暴動レベル 2。

・マスコミ情報 : 3/29、昭通市綏江県で、水力発電所のダム建設で移転立ち退きを迫られた地元住民数千人(1万人という報道もある)が、補償金額に不満で、県庁舎前で大通りを封鎖し、横断幕を掲げて抗議した。当局は千人余(1500人という報道もある)の武装警察や装甲車を出動させ、抗議者を追い散らした。この衝突で双方合わせて50人ほどが負傷した。建設中のダムは全国有数の規模で、投資額は434億元、立ち退きを迫られている住民は10万人に及ぶという。しかし政府当局が示した補償金額は少なく、しかも補償内容が不明なため、住民の不満が高まっていた。また地元政府は住民が転出した後の土地を、開発業者に高値で売り渡したという疑惑も持たれている。

4. 3/31、広東省英徳市黎溪鎮黎明村で、土地収用に不満の村民が高速道路施行阻止。 暴動レベル 1。

・ネット情報 : 3/31、英徳市黎溪鎮黎明村で村民たちが、広東高速道路建設に関する土地収用に不満を持ち政府に訴えたが、なんの回答も得られなかったため、高速道路の施工阻止を試みた。その村民たちを、施工会社の社員や暴力団関係者など100名余が襲い、10名ほどの村民が負傷(そのうち3名は重傷)した。そのとき副鎮長が施工会社側に立ち、「殴り殺せ、俺が責任を持つ」と大声で叫んでいたという。村民たちは鎮政府に医療費などの賠償を求め、今回の事件の徹底調査を求めている。

《私の暴動評価基準》

暴動レベル0 : 抗議行動のみ 破壊なし

暴動レベル1 : 破壊活動を含む抗議行動 100人以下(野次馬を除く) 破壊対象は政府関係のみ

暴動レベル2 : 破壊活動を含む抗議行動 100人以上(野次馬を除く) 破壊対象は政府関係のみ

暴動レベル3 : 破壊活動を含む抗議行動 一般商店への略奪暴行を含む

暴動レベル4 : 偶発的殺人を伴った破壊活動

暴動レベル5 : テロなど計画的殺人および大量破壊活動

以上